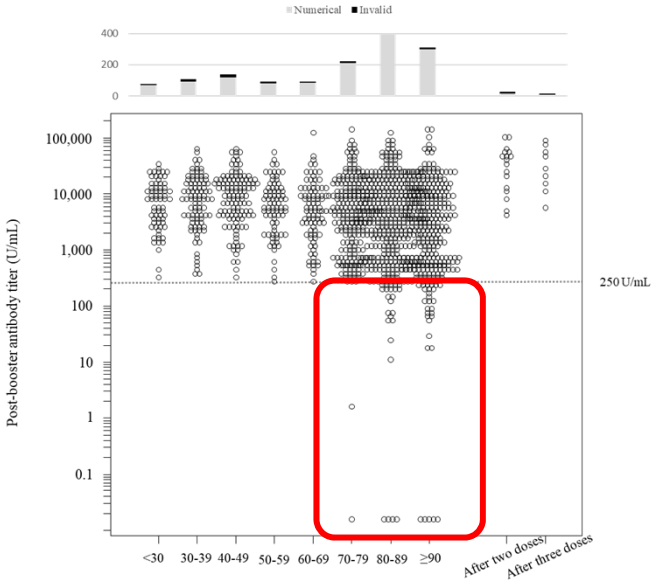
実証済みの技術で新型コロナウイルスから命を守る
- With コロナの世界 -

ハイリスクを特定
-中和抗体検査でできること

高齢者のうち、1割弱はハイリスク群



現状、新型コロナウイルスに対して、高齢者は一概にハイリスクという扱いがされている。
背景として、高齢者には何かしらの持病を抱えているケースが多く、電子カルテ上では新型コロナウイルスにおいて、誰がハイリスクなのかが見える化されていない。

今回、岡山大学の臨床研究によって、高齢者のうち**1割弱**がワクチン接種をしても、**免疫反応が極めて弱い**ことが明らかになった。

このことから、電子カルテ上では見えてこなかったハイリスク群が見える化され、患者のトリアージが可能になったと言える。

【期待されること】

①重症化・死亡率の減少

免疫反応が極めて弱い(ワクチンを打っても抗体価の上がらない)高齢者施設入所者に対して、クラスター発生時の積極的治療対象者としてトリアージしておくことで、早期治療・医療資源の有効活用により、重症化・死亡率の減少を図る。

②社会正常化

高齢者施設の断続的な面会謝絶により、入所者の認知症が悪化しているという状況。また、入所者の一番の苦しみは、病気になることよりも、認知症で家族を忘れてしまうこと。
免疫反応を見せる入所者に対して、適切な感染予防を施した上での、面会再開し、社会正常化を図る。

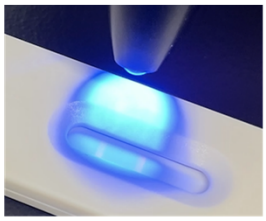
試験方法

デザイン：３回目ワクチン接種前後、前向き反復抗体価測定
対象者：医療従事者、特養・老健施設入所者、職域接種対象者、合計1900名程度
取得するデータ：基本的属性とワクチン接種状況、抗体価、IgMの有無
抗体価評価方法：Mokosensor Q100を利用し指先穿刺による全血で抗体価評価
Mokosensor Q100＆検査テストを利用

ランセットと微小採血管を利用して指先から30μlの血液を採取

検出キットに血液を展開
15分反応させる

静脈血を採血するよりも簡便で迅速、point of careでの利用が可能



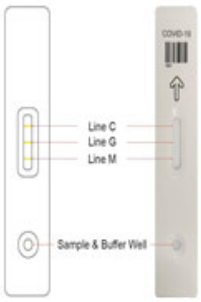
UVで励起させ
シグナル観察可

Mokosensor Q100
を使い抗体価を評価

製品概要

①新型コロナウイルス抗体検出試薬
SARS-CoV-2 S-RBD IgG Quantum Dot Immunoassay (RUO)

検体種　：全血(30ul)、血清(20ul)、血漿(20ul)
反応時間：15分
測定範囲：0-30,000AU/ml (WHO標準単位準拠)
測定精度：大型自動測定機器と同等（当社比較）
包装単位：20テスト／キット



Mokosensor Q100

②免疫蛍光測定装置　Mokosensor　Q100

製品寸法：90mm(幅) x 165mm(奥行) x 50mm(高さ)
製品質量：約250g
測定所要時間：40秒以内

測定手順

血液をプレートに滴下　付属の薬剤を滴下　15分静置

専用検査機器にプレートを挿入すると自動で測定　検査結果表示

採用実績

- 東京圏、中京圏、近畿圏の開業医院、中規模病院、大学病院にて採用
- 2020年6月厚生労働省実施、抗体保有調査に採用
- 日本医療研究開発機構(AMED)令和2年度 「ウイルス等感染症対策技術開発事業」(第2次公募)研究助成採択
- 2020年度、紀陽銀行イノベーションサポートプログラム採択
- 2021年度、内閣官房、ポストコロナ時代の実現に向けた主要技術の実証・導入に係る事業採択
- 中国渡航証明用IgM抗体定量検査薬も販売中

（2022年1月末時点）

●注意事項●

- 本製品は厚生労働省に承認された体外診断用医薬品ではなく、研究用試薬です。
- 本検査は、新型コロナウイルスに対する中和活性を持つ抗体を定量的に測定する検査です。
- 本製品は新型コロナウイルス感染後またはワクチン接種後、人体に中和活性を持つ抗体が生成されるかどうかを確認する目的で使用できます。ワクチン接種後の抗体価上昇には個人差があります。